

科目名	リーダーシップ理論						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	現代社会学部	配当年次	1 年次	単位数	2 単位
教員名	宮木 一平						

授業概要／Course outline

現代は、変化が大きく、価値観が多様化し、正解のない時代です。それゆえに特定の人だけでなく誰もが、状況に応じその人ならではのリーダーにならなければならない時代です。その中で、組織をうまく運営するためには、リーダーシップの理解が不可欠です。本授業では、リーダーシップに関する主要な理論とその歴史的発展を学び、組織や社会におけるリーダーシップの役割について理解を深めます。また、身近な事例や簡単なワークを通じて、自分らしいリーダーシップをデザインします。リーダー経験の有無に関わらず、誰もが参加しやすい入門的内容で、学生生活を充実させるものとし、また社会に出る準備を整えるために役立つ内容です。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

上記アクティブラーニング手法を用いて授業を行う。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

★オンデマンド テーマ：授業概要と場のデザイン（90分相当）

授業のテーマと概要、および授業内容・授業計画を説明し、事前・事後学修の方法、教材、到達目標、身に付く力、履修上の注意等シラバスの諸項目を確認する。あわせて評価方法についても詳しく説明する。最後に課題を提示する。なお、説明動画（約60分）と課題を第2回授業までにmoodleに設置する。配信期間は第14回授業終了時までとするが、課題の提出締切日時は第3回授業開始時までとする。

・実務経験のある教員による授業

担当教員は、大学における研究・教育活動以外に、企業のコンサルティング、行政とのまちづくりプロジェクトに従事するとともに、1995年以来、現在に至るまで国際NGO（NPO法人）の代表としての活動も続けている。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 イン트로ダクション

リーダーシップの誤解を解く。「選ばれた人」の特権ではなく「誰もが発揮できるスキル」であることを解説。

★オンデマンド テーマ：授業概要と場のデザイン（90分相当）

授業のテーマと概要、および授業内容・授業計画を説明し、事前・事後学修の方法、教材、到達目標、身に付く力、履修上の注意等シラバスの諸項目を確認する。あわせて評価方法についても詳しく説明する。最後に課題を提示する。なお、説明動画（約60分）と課題を第2回授業までにmoodleに設置する。配信期間は第14回授業終了時までとするが、課題の提出締切日時は第3回授業開始時までとする。

第2回 特性論：リーダーの素質とは？

初期の理論。偉大なリーダーに共通する「資質」はあるのか？最新のビッグファイブ理論（性格分析）と絡めて検討。

第3回 行動論：何をするかが重要

「資質」から「行動」へ。ミシガン研究やPM理論を扱い、成果を出すリーダーの振る舞いを学ぶ。

第4回 状況適応論（1）

万能なリーダーシップは存在しない。状況（メンバーの成熟度など）に合わせてスタイルを変えるSL理論を学習。

第5回 状況適応論（2）

パス・ゴール理論を中心に、メンバーの進むべき道を「障害物を取り除きながら示す」方法を考える。

第6回 リーダーとフォロワーの関係性

LMX理論。リーダー1人ではなく、フォロワーとの「1対1の質」がチームの成果を左右することを学ぶ。

第7回 フォロワーシップの本質

「良いフォロワー」こそが優れたチームを作る。主体的なフォロワーの役割と重要性について。

第8回 変革型リーダーシップ

変化の激しい現代に求められる、ビジョンを掲げ、メンバーのモチベーションを劇的に高める手法。

第9回 サーバント・リーダーシップ

「奉仕するリーダー」。相手を支え、導くことで信頼を勝ち取る現代的なアプローチ。

第10回 シェアド・リーダーシップ

「全員がリーダー」の時代。役職に関わらず、場面ごとに主役が入れ替わるチームの力学を理解する。

第11回 オーセンティック・リーダーシップ

自分を偽らない。自身の価値観に基づいた「自分らしい」リーダーシップの形を探る。

第12回 意思決定とコンフリクト管理

チーム内の対立をどう解決し、合意形成を行うか。実例を用いたグループワーク形式で検討。

第13回 ダイバーシティとリーダーシップ

多様な価値観を持つメンバーをまとめ、相乗効果を生むためのインクルーシブな視点を学ぶ。

第14回 授業のまとめ：自らのリーダーシップ論

授業全体を振り返り、今後大学生活でどのようなリーダーシップを実践するかをまとめる。授業を通じて得たリーダー観についてグループでディスカッションを行い、最終レポート作成の準備を行う。

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回～第14回

【事前学修】授業内容を理解するための準備として、前回授業での個人ワーク、グループワーク、課題の内容を振り返り、得られた学びと気づきを再確認する。

【事後学修】講義内容を振り返るとともに、今回授業での個人ワーク、グループワーク、課題の内容を振り返り、得られた学びと気づきを再確認する。

★オンデマンド回

【事前学修】シラバスを熟読し、授業内容を理解しておく。

【事後学修】動画内容を復習し、今後実りある授業とするためどのような参加姿勢で臨みたいのかをイメージする。

※各授業（90分）に対する事前・事後学修は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・リーダーシップに関する主要な理論（特性論・行動論・状況適合理論・変革型リーダーシップ等）を理解し、歴史的変遷を正しく説明できる。
- ・リーダーシップとマネジメントの違いを理解し、整理できる。
- ・身近な事例を用いて、各理論を比較・分析する基礎的な思考力を身につける。
- ・グループワークやディスカッションを通じて、自らのリーダーシップ観を言語化し、他者と共有できるようになる。
- ・組織や社会におけるリーダーシップの重要性を理解し、今後の学習や実践に活かす姿勢を養う。
- ・自身の強みを理解し、それを活かしたリーダーシップのスタイルを言語化できる。
- ・多様なメンバーで構成されるチームにおいて、どのように影響力を発揮すべきか提案できる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

・思考力

専門知識・専門技能

【現代社会学部 現代社会学科】

- ・社会学における基礎知識
- ・社会学をはじめとする社会科学の応用知識
- ・リーダーシップ

【現代社会学部 健康スポーツ社会学科】

- ・社会学における基礎知識
- ・リーダーシップ

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・予備知識は必要ないが、授業に積極的に参加する意欲のある学生の履修を希望する。
- ・履修予定者は初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・授業では毎回moodleより授業内で提示した小課題に回答してもらう。回答時間を教員は確認することができるので、小課題の回答は授業内でのワークへの参加確認にもなるし、出席確認にもなる。
- ・なお回答の正誤は問うような小課題は原則として提示しない。試行錯誤して自分なりの回答を導きだすことを重視するので、熱心にワークに取り組み、積極的に発言する受講生を歓迎する。

評価方法／Evaluation

- ・最終レポート25%（提出しないと、たとえ平常点が良くても単位は取得できない）
- ・平常点（小課題提出、ディスカッション・グループワークへの参加、授業内発表等）75%
- ・出席回数、小課題提出回数が3分の2未満の場合は、評価は「/（出席日数不足）」とする。

知識量だけで評価するのではなく、問題発見能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力がどれだけ身についているかを踏まえて総合的に評価する。なお毎回の小課題では、思考力、主体性、発信力、協働性

- ・ 協調性, 専門知識, 専門技能を確認し, 優れた回答例は教室で紹介する。

教 材／Text and materials

- ・ 教科書：なし。
- ・ 参考書等：参考となる文献や資料については, moodleにて, あるいは授業中適宜指示する。

質問や相談の方法／Instructor contact

- ・ 授業前後の教室, あるいは研究室（第6研究室棟2階222研究室）で直接受け付ける。
- ・ Teams（チャット）, メール（mippei@cc.kyoto-su.ac.jp）を通じても随時受け付ける。